

## 基本計画書

基本計画書									
事項	記入欄								備考
計画の区分	研究科等連係課程実施基本組織の設置（研究科の設置）								
フリガナ設置者	コクリツダイガクホウジン エヒメダイガク 国立大学法人 愛媛大学								
フリガナ大学の名称	エヒメダイガクグワダイン 愛媛大学大学院(Graduate School of Ehime University)								
大学本部の位置	愛媛県松山市道後樋又10番13号								
大学の目的	愛媛大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって文化の創造と発展に貢献することを目的とする。								
新設学部等の目的	医農融合による公衆衛生教育を通じ、公衆衛生の体系的な知識に加え、食を通じた健康増進に関する知識及び技能を有し、地域における様々な課題を認知して、科学的判断に基づいて解決策を講じる能力を備え、多様な関係者と協力して、持続可能な健康施策を実現することができる専門職業人（公衆衛生人材）を、幅広い分野に輩出することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	研究科等連係課程基本組織 医農融合公衆衛生学環 [Integrated Medical and Agricultural School of Public Health]	2	5	-	10	修士（公衆衛生学） 【Master of Public Health】	令和4年4月 第1年次	愛媛県東温市志津川454	学位の分野： 医学関係
	連係協力研究科（Ⅰ） 医学系研究科 [Graduate School of Medicine] 医学専攻 [Program for Medical Science]	4	30	-	120	博士（医学） 【Doctor of Medicine】	平成18年4月 第1年次	愛媛県東温市志津川454	学位の分野： 医学関係
	看護学専攻博士前期課程 [Program for Nursing Sciences Master's Course]	2	12	-	24	修士（看護学） 【Master of Nursing Science】	平成10年4月 第1年次		学位の分野： 保健衛生学関係 （看護学関係）
	看護学専攻博士前期課程から医農融合公衆衛生学環の内数とする入学定員数		2		4				
	看護学専攻博士後期課程 [Program for Nursing Sciences Doctoral Course]	3	2	-	6	博士（看護学） 【Doctor of Nursing Science】	令和2年4月 第1年次		学位の分野： 保健衛生学関係 （看護学関係）
	連係協力研究科（Ⅱ） 農学研究科 [Graduate School of Agriculture]							愛媛県松山市樽味3丁目5番7号	
	食料生産学専攻 [Department of Food Production Science]	2	26	-	52	修士（農学） 【Master of Agriculture】	平成28年4月 第1年次		学位の分野： 農学関係
食料生産学専攻から医農融合公衆衛生学環の内数とする入学定員数		1		2					

	生命機能学専攻 [Department of Bioscience]	2	23	-	46	修士 (農学) 【Master of Agriculture】	平成28年4月 第1年次	学位の分野： 農学関係	
	生物環境学専攻 [Department of Science and Technology for Biological Resources and Environment]	2	23	-	46	修士 (農学) 【Master of Agriculture】	平成28年4月 第1年次		学位の分野： 農学関係
	生物環境学専攻から医 農融合公衆衛生学環の 内数とする入学定員数		2		4				
	計		-	-	-				
同一設置者内における 変更状況 (定員の移行, 名称の 変更等)									
教育 課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	研究科等連係課程実施 基本組織 医農融合公衆衛生学環	13科目	7科目	0科目	20科目	30単位			
教 員 組 の 概 要	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
			人	人	人	人	人	人	
	新	研究科等連係課程実施基本組織 医農融合公衆衛生学環	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	
	設	連係協力研究科(I) 医学系研究科	【21】	【8】	【0】	【2】	【31】	【0】	
		医学専攻	(21)	(8)	(0)	(2)	(31)	(0)	
		看護学専攻博士前期課程 看護学専攻博士後期課程							
		連係協力研究科(II) 農学研究科							
		食料生産学専攻 生命機能学専攻 生物環境学専攻							
		計	21 (21)	8 (8)	0 (0)	2 (2)	31 (31)	0 (0)	12 (12)
既	医学系研究科 医学専攻(博士課程)	47 【10】 (47)	55 【3】 (55)	30 【0】 (30)	15 【1】 (15)	147 【14】 (147)	0 【0】 (0)	6 (6)	
	医学系研究科 看護学専攻(博士前期課程)	10 【3】 (10)	2 【0】 (2)	3 【0】 (3)	0 【0】 (0)	15 【3】 (15)	0 【0】 (0)	29 (29)	
	医学系研究科 看護学専攻(博士後期課程)	10 (10)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	8 (8)	
	計	67 (67)	59 (59)	34 (34)	15 (15)	175 (175)	0 (0)	43 (43)	
設	農学研究科 食料生産学専攻(修士課程)	16 【1】 (16)	15 【1】 (15)	0 【0】 (0)	3 【0】 (3)	34 【2】 (34)	0 【0】 (0)	0 (0)	
	農学研究科 生命機能学専攻(修士課程)	6 【3】 (6)	7 【2】 (7)	0 【0】 (0)	5 【1】 (5)	18 【6】 (18)	0 【0】 (0)	0 (0)	
	農学研究科 生物環境学専攻(修士課程)	15 【4】 (15)	17 【2】 (17)	0 【0】 (0)	4 【0】 (4)	36 【6】 (36)	0 【0】 (0)	0 (0)	
	計	37 (37)	39 (39)	0 (0)	12 (12)	88 (88)	0 (0)	0 (0)	
要	合計	21 (21)	8 (8)	0 (0)	2 (2)	31 (31)	0 (0)	12 (12)	

(注)  
<>の中の数は  
研究科等連  
係課程実施基本  
組織のみに  
従事する専任教  
員。  
【】の中の数は  
研究科等連  
係課程実施基本  
組織と連係  
協力研究科等に  
従事する専  
任教員。

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計				
	事 務 職 員		337 (337)	447 (449)	784 (786)				
	技 術 職 員		518 (518)	148 (138)	666 (656)				
	図 書 館 専 門 職 員		17 (17)	0 (0)	17 (17)				
	そ の 他 の 職 員		1 (1)	587 (588)	588 (589)				
	計		873 (873)	1,182 (1,175)	2,055 (2,048)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	316,958㎡	0㎡	0㎡	316,958㎡				
	運 動 場 用 地	79,745㎡	0㎡	0㎡	79,745㎡				
	小 計	396,703㎡	0㎡	0㎡	396,703㎡				
	そ の 他	4,261,457㎡	0㎡	0㎡	4,261,457㎡				
	合 計	4,658,160㎡	0㎡	0㎡	4,658,160㎡				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		219,996㎡ (219,996㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	219,996㎡ (219,996㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	127室	100室	561室	27室 (補助職員 0人)	5室 (補助職員 0人)				
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数					
		医農融合公衆衛生学環		31 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	医農融合公衆衛生学環	1,124,011 [323,332] (1,124,011 [323,332])	23,574 [7,712] (23,574 [7,712])	3,903 [2,347] (3,903 [2,347])	6,929 (6,929)	11,898 (11,898)	1 (1)		
	計	1,124,011 [323,332] (1,124,011 [323,332])	23,574 [7,712] (23,574 [7,712])	3,903 [2,347] (3,903 [2,347])	6,929 (6,929)	11,898 (11,898)	1 (1)		
図書館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数					
		10,615㎡	989	784,833					
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		10,486㎡	武道場1, 弓道場1, テニスコート22面, 水泳プール4基						
経 費 積 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
		教員1人当り研究費等		—	—	—	—	—	—
		共同研究費等		—	—	—	—	—	—
		図書購入費	—	—	—	—	—	—	—
	設備購入費	—	—	—	—	—	—	—	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		—							

大学の名称	国立大学法人 愛媛大学							
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
法文学部						1.02		
人文社会学科	4	365	3年次 30	1,520	学士 (法学・政策学, 学術, 人文学)	1.02	平成28年度	愛媛県松山市文京町3番
教育学部						1.03		
学校教育教員養成課程	4	160	—	600	学士 (教育学)	1.03	平成11年度	愛媛県松山市文京町3番
特別支援教育教員養成課程	4	—	—	—	学士 (教育学)	—	平成20年度	〃
社会共創学部						1.06		
産業マネジメント学科	4	70	—	280	学士 (社会共創学)	1.07	平成28年度	愛媛県松山市文京町3番
産業イノベーション学科	4	25	—	100	学士 (社会共創学)	1.03	平成28年度	〃
環境デザイン学科	4	35	—	140	学士 (社会共創学)	1.04	平成28年度	〃
地域資源マネジメント学科	4	50	—	200	学士 (社会共創学)	1.07	平成28年度	〃
理学部						1.05		
理学科	4	225	—	675	学士 (理学)	1.05	平成31年度	愛媛県松山市文京町2番5号
数学科	4	—	—	—	学士 (理学)	—	平成17年度	〃
物理学科	4	—	—	—	学士 (理学)	—	平成17年度	〃
化学科	4	—	—	—	学士 (理学)	—	平成17年度	〃
生物学科	4	—	—	—	学士 (理学)	—	平成17年度	〃
地球科学科	4	—	—	—	学士 (理学)	—	平成17年度	〃
医学部								
医学科	6	110	2年次 5	685	学士 (医学)	1.00	昭和48年度	愛媛県東温市志津川454
看護学科	4	60	3年次 10	260	学士 (看護学)	1.01	平成6年度	〃
工学部						1.01		
工学科	4	500	3年次 10	1,510	学士 (工学)	1.01	平成31年度	愛媛県松山市文京町3番
機械工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成3年度	〃
電気電子工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成3年度	〃
環境建設工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成8年度	〃
機能材料工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成8年度	〃

令和2年度より  
入学定員増(20人)  
令和2年度より  
学生募集停止

平成31年度より  
学生募集停止  
平成31年度より  
学生募集停止  
平成31年度より  
学生募集停止  
平成31年度より  
学生募集停止  
平成31年度より  
学生募集停止

平成31年度より  
学生募集停止  
平成31年度より  
学生募集停止  
平成31年度より  
学生募集停止  
平成31年度より  
学生募集停止

既設大学等の状況	応用化学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成3年度	〃	平成31年度より 学生募集停止
	情報工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成3年度	〃	平成31年度より 学生募集停止
	農学部						1.05			
	食料生産学科	4	70	3年次 5	290	学士 (農学)	1.06	平成28年度	愛媛県松山市樽味 3丁目5番7号	
	生命機能学科	4	45	3年次 2	184	学士 (農学)	1.04	平成28年度	〃	
	生物環境学科	4	55	3年次 3	226	学士 (農学)	1.04	平成28年度	〃	
	人文社会科学研究科 (修士課程)									
	法文学専攻	2	12	—	24	修士 (法学,人文学)	0.58	令和2年度	愛媛県松山市文京 町3番	
	産業システム創成専攻	2	8	—	16	修士 (経済学,学術)	1.00	令和2年度	〃	
	教育学研究科 (修士課程)									
	心理発達臨床専攻	2	10	—	20	修士 (臨床心理学)	0.65	令和2年度	愛媛県松山市文京 町3番	
	(専門職学位課程)									
	教育実践高度化専攻	2	40	—	80	教職修士 (専門職)	1.09	令和2年度	〃	

医学系研究科									
(博士課程)									
医学専攻	4	30	—	120	博士 (医学)	1.03	平成18年度	愛媛県東温市志津川454	
(博士前期課程)									
看護学専攻	2	12	—	24	修士 (看護学)	0.62	平成10年度	〃	
(博士後期課程)									
看護学専攻	3	2	—	4	博士 (看護学)	1.50	令和2年度	〃	
理工学研究科									
(博士前期課程)									
生産環境工学専攻	2	62	—	124	修士 (工学)	1.22	平成18年度	愛媛県松山市文京町3番	
物質生命工学専攻	2	61	—	122	修士 (工学)	1.11	平成18年度	〃	
電子情報工学専攻	2	59	—	118	修士 (工学)	1.08	平成18年度	〃	
数理物質科学専攻	2	40	—	80	修士 (理学)	0.65	平成18年度	〃	
環境機能科学専攻	2	28	—	56	修士 (理学)	0.96	平成18年度	〃	
(博士後期課程)									
生産環境工学専攻	3	6	—	18	博士 (工学)	0.49	平成18年度	〃	
物質生命工学専攻	3	5	—	15	博士 (工学)	0.40	平成18年度	〃	
電子情報工学専攻	3	4	—	12	博士 (工学)	0.41	平成18年度	〃	
数理物質科学専攻	3	4	—	12	博士 (理学)	1.33	平成18年度	〃	
環境機能科学専攻	3	4	—	12	博士 (理学)	0.83	平成18年度	〃	
農学研究科									
(修士課程)									
食料生産学専攻	2	26	—	52	修士 (農学)	0.63	平成28年度	愛媛県松山市樽味3丁目5番7号	
生命機能学専攻	2	23	—	46	修士 (農学)	1.02	平成28年度	〃	
生物環境学専攻	2	23	—	46	修士 (農学)	0.64	平成28年度	〃	
連合農学研究科									
(博士課程)									
生物資源生産学専攻	3	9	—	27	博士 (農学, 学術)	0.58	昭和60年度	愛媛県松山市樽味3丁目5番7号	

生物資源利用学専攻	3	4	—	12	博士 (農学, 学術)	2.33	昭和60年度	〃
生物環境保全学専攻	3	4	—	12	博士 (農学, 学術)	1.75	昭和60年度	〃
附属施設の概要	名称：医学部附属病院							
	目的：医学教育、研究及び診療							
	所在地：愛媛県東温市志津川4-5-4							
	設置年月：昭和51年5月							
	規模等：建物面積 72,126㎡							
	名称：教育学部附属幼稚園							
	目的：幼児教育、研究及び教員養成							
	所在地：愛媛県松山市持田町1丁目5番22号							
	設置年月：昭和24年5月							
	規模等：建物面積 1,115㎡							
	名称：教育学部附属小学校							
	目的：児童教育、研究及び教員養成							
	所在地：愛媛県松山市持田町1丁目5番22号							
	設置年月：昭和24年5月							
	規模等：建物面積 5,700㎡							
	名称：教育学部附属中学校							
	目的：生徒教育、研究及び教員養成							
所在地：愛媛県松山市持田町1丁目5番22号								
設置年月：昭和24年5月								
規模等：建物面積 7,135㎡								
名称：教育学部附属特別支援学校								
目的：特別支援教育、研究及び教員養成								
所在地：愛媛県松山市持田町1丁目5番22号								
設置年月：昭和47年4月								
規模等：建物面積 3,202㎡								
名称：愛媛大学附属高等学校								

目的：高等普通教育及び専門教育、研究、教育実習
所在地：愛媛県松山市樽味3丁目2番40号
設置年月：平成20年4月
規模等：建物面積 13,785㎡
名称：農学部附属農場
目的：農学の理論を探究しつつ、応用技術を総合化する研究及び学生生徒の実験実習
所在地：愛媛県松山市八反地甲498番地
設置年月：昭和29年4月
規模等：土地面積 187,722㎡
名称：農学部附属演習林
目的：森林・林業に関する研究及び学生生徒の実験実習
所在地：愛媛県松山市大井野町乙145番2
設置年月：昭和32年9月
規模等：土地面積 3,838,905㎡

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
  - 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
  - 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
  - 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
  - 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
  - 6 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。
- 
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
  - 6 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。



教育課程等の概要															
(医農融合公衆衛生学環)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	疫学概論	1前	3			○			1	1		1		兼4 兼1 兼3	オムニバス
	保健行政概論	1前	1			○			3						オムニバス
	医学統計学概論	1前	1			○			2	3		1			オムニバス
	社会科学・行動科学概論	1前	1			○			3	1					オムニバス
	環境・食品衛生学概論	1前	1			○			5	2		1			オムニバス
	小計(5科目)	—	7	0	0	—	—	—	12	5	0	2	0	兼8	
発展科目	感染症・健康危機管理学	1前	1			○			1	1				兼4	オムニバス
	臨床疫学概論	1前		1		○			6	2					オムニバス
	ヘルスデータサイエンス概論	1前		1		○			6	1					オムニバス
	精神保健学概論	1前		1		○			2						兼2
	地域看護学Ⅰ特論	1後		1		○			1						
	地域看護学Ⅱ特論	1後		1		○			1						
	機能性食品開発論	1後		1		○			1						
	統計演習	1後	1					○	1	3		1		兼1	オムニバス
	疫学方法演習	1後	2					○	1	2		1			オムニバス
	E B M演習	1後	1					○	1	2		1			オムニバス
	保健所演習	2前		1				○		1				兼2	オムニバス
地域医療学演習	2前		1				○		1						
小計(12科目)	—	5	8	0	—	—	—	14	5	0	1	0	兼7		
融合科目	医農融合公衆衛生学概論	1前	2			○			4	3				兼1	オムニバス
	医農融合公衆衛生学演習	1後	4					○	4	3		1			オムニバス
	小計(2科目)	—	6	0	0	—	—	—	4	3	0	1	0	兼1	
科研実目究践	実践研究	1後～2通年	8					○	19	7		1			
	小計(1科目)	—	8	0	0	—	—	—	19	7	0	1	0	0	
合計(20科目)		—	26	8	0	—	—	—	21	8	0	2	0	兼12	
学位又は称号		修士(公衆衛生学)			学位又は学科の分野			医学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
修了要件は医農融合公衆衛生学環に2年以上在学し、所定の単位30単位(基礎科目7単位、発展科目9単位、融合科目6単位、実践研究科目8単位)を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文を在学期間中に提出して、その審査及び最終試験に合格した者とする。							1学年の学期区分			2期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

教育課程等の概要															
(医学系研究科医学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	基礎研究方法論	4通	6	(6)		○			15	8	2	1		兼5	オムニバス
	大学院フォーラム	4通	4	(4)		○			1						
	小計(2科目)	—	10	(10)	0	—			16	8	2	1	0	兼5	
	医化学・細胞生物学講義	4通		6(4)		○			1	1	1				
	医化学・細胞生物学演習	4通		7(4)			○		1	1	1				
	医化学・細胞生物学実習	4通		7(4)				○	1	1	1				
	生化学・分子遺伝学講義	4通		6(4)		○			1						
	生化学・分子遺伝学演習	4通		7(4)			○		1						
	生化学・分子遺伝学実習	4通		7(4)				○	1						
	分子細胞生理学講義	4通		6(4)		○			1	1					
	分子細胞生理学演習	4通		7(4)			○		1	1					
	分子細胞生理学実習	4通		7(4)				○	1	1					
	分子病態医学講義	4通		6(4)		○			1	1					
	分子病態医学演習	4通		7(4)			○		1	1					
	分子病態医学実習	4通		7(4)				○	1	1					
	血液・免疫・感染症内科学講義	4通		6(4)		○			1	1	1				
	血液・免疫・感染症内科学演習	4通		7(4)			○		1	1	1				
	血液・免疫・感染症内科学実習	4通		7(4)				○	1	1	1				
	小児科学講義	4通		6(4)		○			1	3	1				
	小児科学演習	4通		7(4)			○		1	3	1				
	小児科学実習	4通		7(4)				○	1	3	1				
	糖尿病内科学講義	4通		6(4)		○			1	1			1		
	糖尿病内科学演習	4通		7(4)			○		1	1			1		
	糖尿病内科学実習	4通		7(4)				○	1	1			1		
	精神神経科学講義	4通		6(4)		○			1	1	2				
	精神神経科学演習	4通		7(4)			○		1	1	2				
	精神神経科学実習	4通		7(4)				○	1	1	2				
	肝胆膵・乳腺外科学講義	4通		6(4)		○			1	1	1	1			
	肝胆膵・乳腺外科学演習	4通		7(4)			○		1	1	1	1			
	肝胆膵・乳腺外科学実習	4通		7(4)				○	1	1	1	1			
	皮膚科学講義	4通		6(4)		○			1	2	1				
	皮膚科学演習	4通		7(4)			○		1	2	1				
	皮膚科学実習	4通		7(4)				○	1	2	1				
	臨床腫瘍学講義	4通		6(4)		○			1						
	臨床腫瘍学演習	4通		7(4)			○		1						
	臨床腫瘍学実習	4通		7(4)				○	1						
	無細胞生命科学講義	4通		2		○								兼1	
	地域小児保健医療学講義	4通		6(4)		○				1					
	地域小児保健医療学演習	4通		7(4)			○			1					
	地域小児保健医療学実習	4通		7(4)				○		1					
	解剖学・発生学講義	4通		6(4)		○			1		1				
	解剖学・発生学演習	4通		7(4)			○		1		1				
	解剖学・発生学実習	4通		7(4)				○	1		1				
	機能組織学講義	4通		6(4)		○			1						
	機能組織学演習	4通		7(4)			○		1						
	機能組織学実習	4通		7(4)				○	1						
	循環生理学講義	4通		6(4)		○			1	1			1		
	循環生理学演習	4通		7(4)			○		1	1			1		
	循環生理学実習	4通		7(4)				○	1	1			1		
	薬理学講義	4通		6(4)		○			1	1					
	薬理学演習	4通		7(4)			○		1	1					

薬理学実習	4通	7(4)			○	1	1					
病態生理学講義	4通	6(4)	○			1						
病態生理学演習	4通	7(4)		○		1						
病態生理学実習	4通	7(4)			○	1						
循環器・呼吸器・腎高血圧内科学講義	4通	6(4)	○			1	1	3	4			
循環器・呼吸器・腎高血圧内科学演習	4通	7(4)		○		1	1	3	4			
循環器・呼吸器・腎高血圧内科学実習	4通	7(4)			○	1	1	3	4			
心臓血管・呼吸器外科学講義	4通	6(4)	○			1	3	1				
心臓血管・呼吸器外科学演習	4通	7(4)		○		1	3	1				
心臓血管・呼吸器外科学実習	4通	7(4)			○	1	3	1				
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講義	4通	6(4)	○			1	1	1	1			
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学演習	4通	7(4)		○		1	1	1	1			
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学実習	4通	7(4)			○	1	1	1	1			
整形外科科学講義	4通	6(4)	○			1	1	2				
整形外科科学演習	4通	7(4)		○		1	1	2				
整形外科科学実習	4通	7(4)			○	1	1	2				
泌尿器科学講義	4通	6(4)	○			1	2	1				
泌尿器科学演習	4通	7(4)		○		1	2	1				
泌尿器科学実習	4通	7(4)			○	1	2	1				
放射線医学講義	4通	6(4)	○			1	1	2	1			
放射線医学演習	4通	7(4)		○		1	1	2	1			
放射線医学実習	4通	7(4)			○	1	1	2	1			
眼科学講義	4通	6(4)	○			1	1					
眼科学演習	4通	7(4)		○		1	1					
眼科学実習	4通	7(4)			○	1	1					
口腔顎顔面外科学講義	4通	6(4)	○			1	1	2	1			
口腔顎顔面外科学演習	4通	7(4)		○		1	1	2	1			
口腔顎顔面外科学実習	4通	7(4)			○	1	1	2	1			
地域胸部疾患治療学講義	4通	6(4)	○			1						
地域胸部疾患治療学演習	4通	7(4)		○		1						
地域胸部疾患治療学実習	4通	7(4)			○	1						
視機能再生学講義	4通	6(4)	○				1					
視機能再生学演習	4通	7(4)		○			1					
視機能再生学実習	4通	7(4)			○		1					
地域眼科学講義	4通	6(4)	○				2					
地域眼科学演習	4通	7(4)		○			2					
地域眼科学実習	4通	7(4)			○		2					
関節機能再建学講義	4通	6(4)	○				1					
関節機能再建学演習	4通	7(4)		○			1					
関節機能再建学実習	4通	7(4)			○		1					
分子寄生虫学講義	4通	6(4)	○			1	1					
分子寄生虫学演習	4通	7(4)		○		1	1					
分子寄生虫学実習	4通	7(4)			○	1	1					
免疫学講義	4通	6(4)	○			1						
免疫学演習	4通	7(4)		○		1						
免疫学実習	4通	7(4)			○	1						
感染防御学講義	4通	6(4)	○			1						
感染防御学演習	4通	7(4)		○		1						
感染防御学実習	4通	7(4)			○	1						
分子病理学講義	4通	6(4)	○			1	1					
分子病理学演習	4通	7(4)		○		1	1					
分子病理学実習	4通	7(4)			○	1	1					
解析病理学講義	4通	6(4)	○			1						
解析病理学演習	4通	7(4)		○		1						
解析病理学実習	4通	7(4)			○	1						
消化器・内分泌・代謝内科学講義	4通	6(4)	○			1	2	2	3			
消化器・内分泌・代謝内科学演習	4通	7(4)		○		1	2	2	3			
消化器・内分泌・代謝内科学実習	4通	7(4)			○	1	2	2	3			
臨床薬理学講義	4通	6(4)	○				1					
臨床薬理学演習	4通	7(4)		○			1					
臨床薬理学実習	4通	7(4)			○		1					

発展科目 / (選択科目)

消化管・腫瘍外科学講義	4通	6(4)	○			1	1	1		
消化管・腫瘍外科学演習	4通	7(4)		○		1	1	1		
消化管・腫瘍外科学実習	4通	7(4)			○	1	1	1		
産科婦人科学講義	4通	6(4)	○			1	2	1		
産科婦人科学演習	4通	7(4)		○		1	2	1		
産科婦人科学実習	4通	7(4)			○	1	2	1		
脳神経外科学講義	4通	6(4)	○			1	1	1		
脳神経外科学演習	4通	7(4)		○		1	1	1		
脳神経外科学実習	4通	7(4)			○	1	1	1		
麻酔・周術期学講義	4通	6(4)	○			1	1	1		
麻酔・周術期学演習	4通	7(4)		○		1	1	1		
麻酔・周術期学実習	4通	7(4)			○	1	1	1		
救急医学講義	4通	6(4)	○			1				
救急医学演習	4通	7(4)		○		1				
救急医学実習	4通	7(4)			○	1				
病態機能解析部門講義	4通	6(4)	○				1	1		
病態機能解析部門演習	4通	7(4)		○			1	1		
病態機能解析部門実習	4通	7(4)			○		1	1		
分子毒理学講義	4通	2		○						
地域生活習慣病・内分泌学講義	4通	6(4)	○			1				
地域生活習慣病・内分泌学演習	4通	7(4)		○		1				
地域生活習慣病・内分泌学実習	4通	7(4)			○	1				
地域消化器免疫医療学講義	4通	6(4)	○				1			
地域消化器免疫医療学演習	4通	7(4)		○			1			
地域消化器免疫医療学実習	4通	7(4)			○		1			
脳神経先端医学講義	4通	6(4)	○				1			
脳神経先端医学演習	4通	7(4)		○			1			
脳神経先端医学実習	4通	7(4)			○		1			
地域低侵襲消化器医療学講義	4通	6(4)	○				1			
地域低侵襲消化器医療学演習	4通	7(4)		○			1			
地域低侵襲消化器医療学実習	4通	7(4)			○		1			
病理診断科講義	4通	6(4)	○				1			
病理診断科演習	4通	7(4)		○			1			
病理診断科実習	4通	7(4)			○		1			
疫学・予防医学講義	4通	6(4)	○			1	1			
疫学・予防医学演習	4通	7(4)		○		1	1			
疫学・予防医学実習	4通	7(4)			○	1	1			
法医学講義	4通	6(4)	○			1				
法医学演習	4通	7(4)		○		1				
法医学実習	4通	7(4)			○	1				
医療情報学講義	4通	6(4)	○			1				
医療情報学演習	4通	7(4)		○		1				
医療情報学実習	4通	7(4)			○	1				
医学教育学講義	4通	6(4)	○			1		1		
医学教育学演習	4通	7(4)		○		1		1		
医学教育学実習	4通	7(4)			○	1		1		
脳神経内科・老年医学講義	4通	6(4)	○			1	1	2		
脳神経内科・老年医学演習	4通	7(4)		○		1	1	2		
脳神経内科・老年医学実習	4通	7(4)			○	1	1	2		
医療薬学講義	4通	6(4)	○				1			
医療薬学演習	4通	7(4)		○			1			
医療薬学実習	4通	7(4)			○		1			
医療教育学講義	4通	6(4)	○			1				
医療教育学演習	4通	7(4)		○		1				
医療教育学実習	4通	7(4)			○	1				
地域医療学講義	4通	6(4)	○			1	1			
地域医療学演習	4通	7(4)		○		1	1			
地域医療学実習	4通	7(4)			○	1	1			
地域医療再生学講義	4通	6(4)	○			1				
地域医療再生学演習	4通	7(4)		○		1				
地域医療再生学実習	4通	7(4)			○	1				

兼1

	地域救急医療学講義	4通		6(4)		○			1	1						
	地域救急医療学演習	4通		7(4)			○		1	1						
	地域救急医療学実習	4通		7(4)				○	1	1						
	地域小児・周産期学講義	4通		6(4)		○			2							
	地域小児・周産期学演習	4通		7(4)			○		2							
	地域小児・周産期学実習	4通		7(4)				○	2							
	救急航空医療学講義	4通		6(4)		○			1							
	救急航空医療学演習	4通		7(4)			○		1							
	救急航空医療学実習	4通		7(4)				○	1							
	抗加齢医学講義	4通		6(4)		○			1							
	抗加齢医学演習	4通		7(4)			○		1							
	抗加齢医学実習	4通		7(4)				○	1							
	睡眠医療センター講義	4通		6(4)		○				1						
	睡眠医療センター演習	4通		7(4)			○			1						
	睡眠医療センター実習	4通		7(4)				○		1						
	総合診療サポートセンター講義	4通		6(4)		○				1						
	総合診療サポートセンター演習	4通		7(4)			○			1						
	総合診療サポートセンター実習	4通		7(4)				○		1						
	医療安全管理部講義	4通		6(4)		○				1						
	医療安全管理部演習	4通		7(4)			○			1						
	医療安全管理部実習	4通		7(4)				○		1						
	小計 (191科目)	—	0	1264(760)	0	—			144	165	90	39	0	兼2		
共通 コア 科目	研究方法論	4通	1			○			1							
	悪性腫瘍の管理と治療	4通	1			○			1							
	医療倫理と法律的・経済的問題	4通	0.5			○			1							
	医療とコミュニケーション	4通	0.5			○			1							
	がんチーム医療実習	4通	0.5			○			1							
	医療情報学	4通	0.5			○			1							
	小計 (6科目)	—	4	0	0	—			6	0	0	0	0			
がん 専門 医共 通科 目	がんのベーシックサイエンスと臨床薬理学	4通	1			○			1							
	がんの臨床検査・病理診断・放射線診断学	4通	0.5			○			1							
	がん治療各論	4通	2			○			1							
	がん緩和治療	4通	0.5			○			1							
	小計 (4科目)	—	4	0	0	—			4	0	0	0	0			
臨床 専門 腫瘍 科 目	臨床腫瘍学実習	4通	8					○	1							
	専門研究	4通	4				○	○	1							
	小計 (2科目)	—	12	0	0	—			2	0	0	0	0			
合計 (205科目)		—	30	1264(760)	0	—			172	173	92	40	0	兼7		
学位又は称号		博士 (医学)			学位又は学科の分野			医学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
<p>発展科目 / (選択科目) の単位数の ( ) は選択科目の単位数を表す。</p> <p>本研究科に4年以上在籍し、主指導教員の指導のもとに上記に定める共通科目と発展科目 (講義・演習・実習 各1つ以上) の単位 (合計30単位以上) を取得するとともに、学位論文を提出してその審査および最終試験に合格した者に博士 (医学) の学位を授与する。ただし、3年以上在学し優れた研究業績をあげた場合には、在学期間が4年未満であっても学位を授与することがある。</p> <p>また、本研究科の「臨床腫瘍学教育課程」においては、4年以上在学し、指導教員の指導の下に、上記に定める共通コア科目・がん専門医共通科目・臨床腫瘍医専門科目・選択科目の単位 (合計30単位以上) を取得するとともに、学位論文を提出してその審査及び最終試験に合格した者に博士 (医学) の学位を授与する。ただし、3年以上在学し優れた研究業績をあげた場合には、在学期間が4年未満であっても学位を授与することがあります。</p>								1 学年の学期区分			2 期					
								1 学期の授業期間			1 5 週					
								1 時限の授業時間			9 0 分					

教育課程等の概要														
(医学系研究科看護学専攻博士前期課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
地域健康システム看護学科目	地域看護学Ⅰ特論	1後		2		○			1					
	地域看護学Ⅰ特別演習	1後		2			○		1					
	地域看護学Ⅰ特別研究	1～2通		8			○		1					
	地域看護学Ⅱ特論	1後		2		○			1					
	地域看護学Ⅱ特別演習	1後		2			○		1					
	地域看護学Ⅱ特別研究	1～2通		8			○		1					
	高齢者看護学特論Ⅰ	1前		2		○			1					兼1 オムニバス ※1
	高齢者看護学特別演習Ⅰ	1後		2			○		1		1			兼1 オムニバス・共同(一部) ※1
	高齢者看護学特別研究	1～2通		8			○		1					
	在宅看護学特論	1前		2		○				1				
	在宅看護学特別演習	1後		2			○			1				
	在宅看護学特別研究	1～2通		8			○			1				
	在宅高齢者看護学特論	1前		2		○					1			
	在宅高齢者看護学特別演習	1後		2			○				1			
	老年精神地域包括ケア学特論	1前		2		○			1					
	老年精神地域包括ケア特別演習	1後		2			○		1					
	老年精神地域包括ケア特別研究	1～2通		8			○		1					
	地域精神看護学特論	1前		2		○					1			
	地域精神看護学特別演習	1後		2			○				1			
	看護生理学特論	1前		2		○			1					
看護生理学特別演習	1後		2			○		1						
看護生理学特別研究	1～2通		8			○		1						
小計 (22科目)		—	0	80	0				5	1	2	0	0	兼2
基盤・実践看護学科目	基盤看護学Ⅰ特論	1前		2		○			1					
	基盤看護学Ⅰ特別演習	1後		2			○		1					
	基盤看護学Ⅰ特別研究	1～2通		8			○		1					
	基盤看護学Ⅱ特論	1前		2		○				1				
	基盤看護学Ⅱ特別演習	1後		2			○			1				
	基盤看護学Ⅱ特別研究	1～2通		8			○			1				
	基盤看護学Ⅲ特論	1前		2		○					1			
	基盤看護学Ⅲ特別演習	1後		2			○				1			
	外科系病態生理学特論	1後		2		○			1					
	外科系病態生理学特別演習	1後		2			○		1					
	外科系病態生理学特別研究	1～2通		8			○		1					
	成人看護学特論	1前		2		○			1					
	成人看護学特別演習	1後		2			○		1					
	成人看護学特別研究	1～2通		8			○		1					
	リプロダクティブヘルス看護学特論	1前		2		○			1					
	リプロダクティブヘルス看護学特別演習	1後		2			○		1					
	リプロダクティブヘルス看護学特別研究	1～2通		8			○		1					
小児発達看護学特論	1前		2		○			1						
小児発達看護学特別演習	1後		2			○		1						
小児発達看護学特別研究	1～2通		8			○		1						
小計 (20科目)		—	0	88	0				5	1	1	0	0	

共通授業科目	看護教育論	1後		2		○			1				※2		
	看護管理論	1後		2		○			1				兼2 オムニバ ※2		
	看護理論	1前		2		○				1			※2		
	看護研究方法論	1前	2			○			4				オムニバ・共 同(一部) ※1		
	看護研究演習	1後	2				○		1	1			オムニバ 兼1 ※2		
	コンサルテーション論	1後		2		○							※1		
	看護倫理	1前		2		○			1				オムニバ ※2		
	看護政策論	1後		2		○			2				兼2 オムニバ ※2		
	地域包括ケア基礎論	1後		2		○			5	1	1		兼2 オムニバ ス・共同(一 部) 共同		
	生体情報論	1後		2		○			1	1					
	統計学	1前		2		○			1						
	臨床薬理学	1後		2		○				3			兼8 オムニバ ス・共同(一 部) ※1		
	フィジカルアセスメント	1前		2		○			1				兼3 オムニバ ※1		
	病態生理学	1前		2		○			3				兼2 オムニバ ※1		
	小計(14科目)	—	4	24	0	—			10	2	1	0	0	兼18	
老人看護専門看護師養成プログラム科目	専門分野基礎科目	高齢者看護学特論Ⅱ	1前		2		○		1	1	1			兼2 オムニバ ス・共同(一 部) ※1	
		高齢者病態治療論	1前		2		○		4					兼4 オムニバ ※1	
		高齢者生活援助論	1前		2		○		1	1	1			兼3 オムニバ ※1	
		高齢者支援システム論	1前		2		○				1			兼2 オムニバ ス・共同(一 部) ※1	
	小計(4科目)	—	0	8	0	—		4	1	1	0	0	兼11		
	専門科目専門分野	高齢者看護学特別演習Ⅱ	1後		2			○		2		2			オムニバ・共 同(一部) ※1
		小計(1科目)	—	0	2	0	—		2	0	2	0	0		
	実習科目	高齢者実践看護実習Ⅰ	1後		4			○		1		1			集中 共同 ※1
		高齢者実践看護実習Ⅱ	2前		6			○		1		1			集中 共同 ※1
		小計(2科目)	—	0	10	0	—		1	0	1	0	0		
課題研究	課題研究	2通		2			○		1					※1	
	小計(1科目)	—	0	2	0	—		1	0	0	0	0			
合計(67科目)		—	4	214	0	—		10	2	3	0	0	兼29		
学位又は称号	修士(看護学)	学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係)										
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
<p>修了要件は博士前期課程に2年以上在学し、指導教員の担当する特論2単位、特別演習2単位、特別研究8単位、上記以外の特論、特別演習から4単位以上、共通授業科目の必修科目4単位、選択科目から10単位以上の合計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受け、修士論文審査並びに最終試験に合格すること。</p> <p>老人看護専門看護師養成プログラムを履修する場合は、必修科目(※1)36単位、選択科目(※2)から4単位以上の合計40単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受け、修士論文審査並びに最終試験に合格すること。</p>								1学年の学期区分			2期				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業時間			90分				

教育課程等の概要														
（医学系研究科看護学専攻博士後期課程）														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	生活支援看護開発学特講	1前	2			○			7	2				オムニバス
	地域看護システム開発学特講	1前	2			○			3					兼2 オムニバス
	地域包括ケア演習	1後	2				○		4	1	1			オムニバス・共同（一部）
	小計（3科目）	—	6	0	0		—		10	2	1	0	0	兼2
関連科目	地域医療学	1後		2		○			2					兼5 オムニバス
	応用統計学	1後		2		○				1				兼1 オムニバス
	研究方法特講	1後		2		○			5					兼1 オムニバス
	小計（3科目）	—	0	6	0		—		6	1	0	0	0	兼6
研特 究別	地域包括ケア開発学特別研究	1～3通年	6				○		10	2	1			
	小計（1科目）	—	6	0	0		—		10	2	1	0	0	
合計（7科目）			—	12	6	0		—	10	2	1	0	0	兼8
学位又は称号		博士（看護学）		学位又は学科の分野				保健衛生学関係（看護学関係）						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
修了要件は博士後期課程に3年以上在学し、専門科目の必修科目6単位、関連科目の選択科目から2単位以上、特別研究の必修単位6単位の合計14単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受け、博士論文審査並びに最終試験に合格すること。								1学年の学期区分			2期			
								1学期の授業期間			15週			
								1時限の授業時間			90分			



教育課程等の概要															
(農学研究科食料生産学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究科共通科目	英語プレゼンテーション	1後	2			○									兼1 兼1 オムニバス 兼1 兼1
	技術者・研究者倫理	1前	1			○									
	農学最先端研究	1後	2			○			3	3		2			
	農業研究開発・産業創成特別講義	1後	1			○									
	太陽光利用型植物工場セミナー	1・2		1		○			1						
	サマーセミナー	1・2		2		○			1						
	国際農林水産学セミナー	1・2		1		○			1						
	特別講義	1・2		1		○									
小計 (8科目)		-	6	5	0				5	3	0	2	0	兼4	
専攻共通科目	インターンシップ I	1～2	1					○	16	15		3			選必 選必 オムニバス 選必 選必 オムニバス
	作物生産生理学特論	1前		1		○			1						
	植物工場特論	1前		1		○			4	3		2			
	農業経営学特論	1前		1		○			1						
	知能的食料生産学特論	1前		1		○			1						
	インターンシップ II	1～2		1				○	16	15		3			
	水圏生産学特論	1前		1		○			2	3					
	外書講読	1後		1		○			16	15		3			
	食料生産学特別演習	1～2		4				○	16	15		3			
	食料生産学特別実験・実習	1～2		4				○	16	15		3			
小計 (10科目)		-	1	15	0				16	15		3	0		
農業生産学コース	分子生物資源学特論	1後		1		○			1						オムニバス オムニバス
	果樹学特論	1後		1		○			1	1					
	蔬菜花卉園芸学特論	1前		1		○			1						
	動物飼養学特論	1後		1		○				1					
	植物病理学特論	1前		1		○				1					
	昆虫学特論	1後		1		○			1	1					
	土壌管理学特論	1前		1		○			1						
	農業生産学研究	2前		2		○			6	5		1			
	農業生産学演習	2		4				○	6	5		1			
	農業生産学実験・実習	2		4				○	6	5		1			
小計 (10科目)		-	0	17	0				6	5	0	1	0		
植物工場システム学コース	環境植物学特論	1前		1		○				1					
	植物環境工学特論	1前		1		○							1		
	作物水分生理学	1後		1		○			1						
	ロボット制御工学	1後		1		○			1						
	流通工学	1前		1		○				1					
	植物生体計測学	1後		1		○			1						
	システムモデリング工学	1後		1		○				1					
	微生物制御特論	1後		1		○						1			
	植物工場システム学特別演習	2		4				○	3	3		2			
	植物工場システム学特別実験・実習	2		4				○	3	3		2			
小計 (11科目)		-	0	17	0				3	3	0	2	0		

コース専門科目	食料生産経営学コース	フードシステム論	1後		1		○				1								
		資源経済学特論	1前		1		○					1							
		水産社会論	1後		1		○				1								
		農業構造政策学特論	1後		1		○					1							
		地域農業発展論	1後		1		○					1							
		農業資源管理論	1後		1		○				1								
		地域農業組織論	1前		1		○				1								
		海域社会論	1後		1		○					1							
		農山村調査	1後		1		○				3	5							
		食料生産経営学Ⅰ	1前		1		○				3	5							
		食料生産経営学Ⅱ	1後		1		○				3	5							
		ケーススタディ	2		2				○		3	5							
		食料生産経営学演習Ⅰ	2前		1				○		3	5							
		食料生産経営学演習Ⅱ	2前		1				○		3	5							
		食料生産経営学演習Ⅲ	2後		1				○		3	5							
		食料生産経営学演習Ⅳ	2後		1				○		3	5							
		食料生産経営学特別演習Ⅰ	2前		1				○		3	5							
		食料生産経営学特別演習Ⅱ	2後		1				○		3	5							
	小計(18科目)	-	0	19	0			-		3	5	0	0	0					
	水圏生産学コース	水圏生産学演習Ⅰ	2	2				○		3	2								
水圏生産学実験Ⅰ		2	2					○	3	2									
水圏生産学演習Ⅱ		2	3				○		3	2									
水圏生産学実験Ⅱ		2	6					○	3	2									
水圏生命科学Ⅰ		1前		1		○			1										
水圏生命科学Ⅱ		1前		1		○				1									
水圏環境科学Ⅰ		1後		1		○			1										
水圏環境科学Ⅱ		1後		1		○				1									
水圏社会科学Ⅰ		1後		1		○			1										
水圏社会科学Ⅱ		1後		1		○				1									
養殖技術論		1後		1		○			1										
小計(11科目)	-	13	7	0			-	3	2	0	0	0							
知的食料生産科学特別コース	農業情報工学特論	1前		1		○			1										
	知的食料生産学特別演習	2		4			○		1										
	知的食料生産学特別実験・実習	2		4				○	1										
	分子生物資源学特論	1後		1		○			1										
	植物病理学特論	1前		1		○				1									
	環境植物学特論	1前		1		○				1									
	植物環境工学特論	1前		1		○							1						
	作物水分生理学	1後		1		○			1										
	ロボット制御工学	1後		1		○			1										
	流通工学	1前		1		○				1									
	植物生体計測学	1後		1		○			1										
	農業資源管理論	1後		1		○			1										
小計(12科目)	-	0	18	0			-	1	0	0	0	0							
合計(80科目)	-	20	98	0			-	37	33	0	8	0			兼4				

学位又は称号	修士（農学）	学位又は学科の分野	農学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
修了要件は農学研究科修士課程に2年以上在学し、指導教員の指示により、以下に記載する履修方法に基づき、単位30単位以上を修得し、かつ、学位論文又は特定の課題についての研究の成果を提出し、その審査及び最終試験に合格すること。 <b>【全専攻共通】</b> 研究科共通科目 必修6単位  <b>【全コース共通】</b> 専攻共通科目 必修1単位  <b>【農業生産学コース】</b> 専攻共通科目 選択必修科目（作物生産生理学特論、植物工場特論、農業経営学特論、知的食料生産学特論）から3単位以上 選択科目から2単位以上 コース専門科目 選択科目（研究科共通科目、専攻共通科目を含む）から18単位以上 <u>合計30単位以上</u>  <b>【植物工場システム学コース】</b> 専攻共通科目 選択必修科目（作物生産生理学特論、植物工場特論、農業経営学特論、知的食料生産学特論）から3単位以上 選択科目から2単位以上 コース専門科目 選択科目（研究科共通科目、専攻共通科目を含む）から18単位以上 <u>合計30単位以上</u>  <b>【食料生産経営学コース】</b> 専攻共通科目 選択必修科目（作物生産生理学特論、植物工場特論、農業経営学特論、知的食料生産学特論）から3単位以上 選択科目から2単位以上 コース専門科目 選択科目（研究科共通科目、専攻共通科目を含む）から18単位以上 <u>合計30単位以上</u>  <b>【水圏生産学コース】</b> 専攻共通科目 必修2単位（水圏生産学特論、知的食料生産学特論） 選択科目から2単位以上 コース専門科目 必修13単位 選択科目（研究科共通科目、専攻共通科目を含む）から6単位以上 <u>合計30単位以上</u>  <b>【知的食料生産科学特別コース】</b> 専攻共通科目 選択必修科目（作物生産生理学特論、植物工場特論、農業経営学特論、知的食料生産学特論）から3単位以上 選択科目から2単位以上 コース専門科目 選択科目（研究科共通科目、専攻共通科目）から18単位以上 <u>合計30単位以上</u>		1 学年の学期区分	4 学期
		1 学期の授業期間	8 週
		1 時限の授業時間	9 0 分

教育課程等の概要																
(農学研究科生命機能学専攻)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
研究科共通科目	英語プレゼンテーション	1後	2			○									兼1	
	技術者・研究者倫理	1前	1			○									兼1	
	農学最先端研究	1後	2			○			3	3		2			オムニバス	
	農業研究開発・産業創成特別講義	1後	1			○									兼1	
	太陽光利用型植物工場セミナー	1・2		1		○			1							
	サマーセミナー	1・2		2		○			1							
	国際農林水産学セミナー	1・2		1		○			1							
	特別講義	1・2		1		○										兼1
小計(8科目)			6	5	0				5	3	0	2	0		兼4	
専攻共通科目	生命機能学特別セミナー	1・2通	1					○	6	4					オムニバス	
	生命機能学先端研究	1後	2			○			6	4					オムニバス	
	生命機能学演習Ⅰ	1通	2					○	6	7		5				
	生命機能学演習Ⅱ	2通	2					○	6	7		5				
	食品微生物管理学	1前		1		○				1						
	生物有機化学	1前		1		○			1							
	細胞制御工学	1前		1		○			1							
	産業用酵素と生化学	1前		1		○			1							
	細胞生物学	1後		1		○				1						
	応用分子遺伝学	1後		1		○			1							
	農薬の創製	1後		1		○			1							
	微生物遺伝子制御工学	1後		1		○				1						
	機能性分子作用論	1後		1		○				1						
	生体膜の生化学	1後		1		○				1						
天然物有機化学	1後		1		○				1							
生命機能学特別研修	1・2		1		○			6	7		5					
小計(16科目)			7	12	0				6	7		5	0			
コース専門科目	応用生命化学コース	応用生命化学特別実験Ⅰ	1通	4					○	5	6		4			
		応用生命化学特別実験Ⅱ	2通	8					○	5	6		4			
		栄養疫学	1前	1			○				1					
		栄養学概論	1前	1			○			1						
		先端生命科学研究方法論Ⅰ	1後	2			○			1					兼4	オムニバス
		機能性食品開発論	1後	1			○			1						
		先端生命科学研究方法論Ⅱ	2後	2			○			1					兼4	オムニバス
	小計(7科目)			19	0	0				6	6	0	4	0	兼8	
健康機能栄養科学特別コース	栄養学概論	1前	1			○			1							
	機能性食品開発論	1後	1			○			1							
	先端生命科学研究方法論Ⅰ	1後	2			○			1					兼8	オムニバス	
	先端生命科学研究方法論Ⅱ	2後	2			○			1					兼8	オムニバス	
	健康機能栄養科学特別実験Ⅰ	1通	4					○	1							
	健康機能栄養科学特別実験Ⅱ	2通	4					○	1							
	栄養疫学	1前		1		○				1						
	インターンシップ	1後・2前		2				○	1							
小計(8科目)			14	3	0				2	1	0	0	0	兼8		
合計(39科目)				46	20	0			6	7	0	5	0		兼20	

学位又は称号	修士（農学）	学位又は学科の分野	農学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
修了要件は農学研究科修士課程に2年以上在学し、指導教員の指示により、以下に記載する履修方法に基づき、単位30単位以上を修得し、かつ、学位論文又は特定の課題についての研究の成果を提出し、その審査及び最終試験に合格すること。		1 学年の学期区分	4 学期
		1 学期の授業期間	8 週
		1 時限の授業時間	90 分
<b>【全専攻共通】</b> 研究科共通科目 必修6単位			
<b>【全コース共通科目】</b> 専攻共通科目 必修7単位			
<b>【応用生命化学コース】</b> 必修12単位 選択科目（研究科共通科目、専攻共通科目）から5単位以上		<b>合計 30単位以上</b>	
<b>【健康機能栄養科学特別コース】</b> 必修14単位 選択科目（研究科共通科目、専攻共通科目を含む）から3単位以上		<b>合計 30単位以上</b>	

教育課程等の概要															
(農学研究科生物環境学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究科共通科目	英語プレゼンテーション	1後	2			○									兼1 兼1 オムニバス 兼1 兼1 兼1 兼4
	技術者・研究者倫理	1前	1			○									
	農学最先端研究	1後	2			○			3	3		2			
	農業研究開発・産業創成特別講義	1後	1			○									
	太陽光利用型植物工場セミナー	1・2		1		○			1						
	サマーセミナー	1・2		2		○			1						
	国際農林水産学セミナー	1・2		1		○			1						
	特別講義	1・2		1		○									
小計（8科目）	-		6	5	0	-			5	3	0	2	0		
専攻共通科目	森林資源学特論	1前		1		○			3	8					オムニバス  オムニバス オムニバス
	森林環境管理学特論	1前		1		○			1						
	バイオマス資源学特論	1前		1		○				1					
	地域環境工学特論	1前		1		○			4	3		1			
	環境保全学特論	1前		1		○			6	4		1			
	水環境再生科学特論	1前		1		○			1						
小計（6科目）	-		0	6	0	-			14	16	0	2	0		
森林資源学コース	森林資源学特別演習I	1	2					○	3	8		1			兼1 オムニバス
	森林資源学特別実験I	1	2					○	3	8		1			
	森林資源学特別演習II	2	2					○	3	8		1			
	森林資源学特別実験II	2	6					○	3	8		1			
	木材工学特論(含実習)	1後	1			○			1	1					
	森林教育学特論	1前		1		○				1					
	木質バイオマス変換利用学特論	1前		1		○				1					
	森林修復再生学特論	1前		1		○				1					
	森林生態生理学	1後		1		○				1					
	森林広域計測	1前		1		○				1					
	樹木遺伝子資源論	1前		1		○				1					
	森林水文学特論	1前		1		○				1					
	天然物化学	1後		1		○			1						
	研究プレゼンテーションI	2前		1				○	3	8		1			
森林資源調査	2		2				○	3	8		1				
小計（15科目）	-		13	11	0	-			3	8	0	1	0		

森林環境管理工学サブコース	森林資源学特別演習Ⅰ	1	2		○		1											
	森林資源学特別演習Ⅱ	2	2			○	1											
	インターンシップ	2前	2				○	1										
	精密森林管理特論	1前		1		○											兼1	
	森林作業管理特論(含実習)	1前		1		○		○	1								兼1	オムニバス
	労働安全衛生管理特論	1前		1		○		○	1								兼1	オムニバス
	林業マネジメント特論	1後		1		○											兼1	
	森林産業育成特論	1後		1		○											兼1	
	野生動物被害防止特論(含実習)	1前		1		○		○									兼1	
	森林施業管理特論	1前		1		○											兼1	
	森林環境管理学特別講義	1		2		○											兼1	
	先進林業地実習	1後		1				○	1									
	森林教育学特論	1前		1		○				1								
	木質バイオマス変換利用学特論	1前		1		○				1								
	森林修復再生学特論	1前		1		○				1								
	森林生態生理学	1後		1		○				1								
	森林広域計測	1前		1		○				1								
	樹木遺伝子資源論	1前		1		○				1								
	森林水文学特論	1前		1		○				1								
	木材工学特論(含実習)	1後		1		○			1	1							兼1	オムニバス
	小計(20科目)	-	6	18	0		-	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	兼9
バイオマス資源学コース	バイオマス資源学実習Ⅰ	1前	1					○		1			1					
	バイオマス資源学実習Ⅱ	1前	2					○		1			1					
	製紙技術論	1前	1			○											兼1	
	製紙概論	1前	1			○			1									
	バイオマス資源学コース特別講義Ⅰ	1	1			○			1									
	バイオマス資源学コース特別演習Ⅰ	1	1				○		1	2			2					オムニバス
	現場見学Ⅰ	1		1				○	2	2			1					オムニバス
	現場見学Ⅱ	2		1				○	2	2			1					オムニバス
	バイオマス資源学コース特別演習Ⅱ	2	1				○		1	2			1					オムニバス
	プロジェクト演習	2	8					○	1	2			1					オムニバス
	紙加工製品技術論	1後		1			○		1									
	不織布技術発展論	1・2後		1			○										兼1	隔年
	知的財産管理論	1・2後		1			○										兼1	隔年
	バイオマス資源学コース特別講義Ⅱ	2前		1			○		1									
英語プレゼンテーションⅡ	2		1			○			1									
製品製造実習	1・2		4					1	1			2					オムニバス	
バイオマス分析化学特論	2前		1			○						1						
バイオマス分析化学演習	2前		1			○						1						
小計(18科目)	-	16	13	0		-	1	2	0	2	0	2	0	0	0	0	兼3	
地域環境工学コース	地域環境整備学特論	1後		1		○			1									
	構造力学特論	2前		1		○												兼1
	土質力学特論	1後		1		○			1									
	応用水理学特論	1後		1		○				1								
	土壌物理学特論	1後		1		○				1								
	生物圏水・熱収支論	1後		1		○			1									
	水文気象学特論	1後		1		○				1								
	農村計画学特論	2前		1		○			1									
	地域環境工学特別セミナー	1後		2		○			4	3			1					
	研究プレゼンテーションⅡ	2		1			○		4	3			1					
	インターンシップ	2		2					4	3			1					
	地域環境工学演習	2		4			○		4	3			1					
	地域環境工学実験Ⅰ	1		2					4	3			1					
	地域環境工学実験Ⅱ	2		4					4	3			1					
小計(14科目)	-	0	23	0		-	4	3	0	1	0	1	0	0	0	0	兼1	

環境保全学コース	生態系管理論	1後		1		○			1										
	環境物質化学	1前		1		○			1										
	水族繁殖生理学	1後		1		○			1										
	海洋生物地球科学	1後		1		○					1								
	応用水圏環境化学	1後		1		○				1									
	応用環境化学	1後		1		○			1	1									
	環境産業技術	1前		1		○												兼1	
	環境分子毒性学	1後		1		○				1									
	里山生態学	1後		1		○				1									
	環境リスク学	1後		1		○				1									
	研究プレゼンテーションⅢ	1・2		1				○		6	4		1						
	インターンシップ	2		2					○	6	4		1						
	環境保全学特別演習Ⅰ	1		2					○	6	4		1						
	環境保全学特別実験Ⅰ	1		4						6	4		1						
	環境保全学特別演習Ⅱ	2		2					○	6	4		1						
	環境保全学特別実験Ⅱ	2		4						6	4		1						
小計 (16科目)	-		0	25	0			-	6	4	0	1	0					兼1	
水環境再生科学特別コース	環境物質化学工学	1前		1		○			1										
	先端水処理科学	1後		1		○			1										
	汚染物質動態解析特論	1後		1		○			2									オムニバス	
	環境遺伝子工学	1後		1		○			1										
	地域環境整備学特論	1後		1		○			1										
	研究プレゼンテーションⅣ	2後		1				○	2									オムニバス	
	水環境再生科学演習Ⅰ	1前		1				○	2	1								オムニバス	
	水環境再生科学実験Ⅰ	1前		2					○	2	1								オムニバス
	水環境再生科学演習Ⅱ	2前		2					○	2	1								オムニバス
	水環境再生科学実験Ⅱ	2		4						○	2	1							オムニバス
	水文気象学特論	1後			1		○				1								
	環境物質化学	1前			1		○			1									
	海洋生物地球科学	1後			1		○					1							
	応用水圏環境化学	1後			1		○				1								
	応用環境化学	1後			1		○			1	1								オムニバス
	海外インターンシップ	1			2				○	3									オムニバス
小計 (16科目)	-		15	7	0			-	1	1	0	1	0						
合計 (113科目)	-		56	108	0			-	15	17	0	4	0					兼35	
学位又は称号	修士 (農学)		学位又は学科の分野				農学関係												
卒業要件及び履修方法										授業期間等									
修了要件は農学研究科修士課程に2年以上在学し、指導教員の指示により、以下に記載する履修方法に基づき、単位30単位以上を修得し、かつ、学位論文又は特定の課題についての研究の成果を提出し、その審査及び最終試験に合格すること。										1学年の学期区分				4学期					
										1学期の授業期間				8週					
										1時限の授業時間				90分					
<b>【全専攻共通】</b> 研究科共通科目 必修6単位																			
<b>【森林資源学コース】</b> 専攻共通科目 必修2単位(森林資源学特論, 森林環境管理学特論) 選択科目から2単位 コース専門科目 必修科目12単位 選択科目(研究科共通科目, 専攻共通科目)から8単位以上 <b>合計30単位以上</b>																			
<b>【森林環境管理学サブコース】</b> 専攻共通科目 必修2単位(森林資源学特論, 森林環境管理学特論) 選択科目から2単位 コース専門科目 必修科目6単位 選択科目(研究科共通科目, 専攻共通科目)から14単位以上 <b>合計30単位以上</b>																			
<b>【バイオマス資源学コース】</b> 専攻共通科目 必修1単位(バイオマス資源学特論) コース専門科目 必修科目16単位 選択科目(研究科共通科目, 専攻共通科目を含む)から7単位以上 <b>合計30単位以上</b>																			



**【地域環境工学コース】**

専攻共通科目 必修1単位(地域環境工学特論)  
選択科目から 3単位

コース専門科目 選択科目(研究科共通科目, 専攻共通科目)から20単位以上  
合計30単位以上

**【環境保全学コース】**

専攻共通科目 必修1単位(環境保全学特論)  
選択科目から 3単位

コース専門科目 選択科目(研究科共通科目, 専攻共通科目を含む)から20単位以上  
合計30単位以上

**【水環境再生科学特別コース】**

専攻共通科目 必修2単位(水環境再生科学特論, 環境保全学特論)  
選択科目から 2単位

コース専門科目 必修科目15単位  
選択科目(研究科共通科目, 専攻共通科目)から5単位以上  
合計30単位以上

授 業 科 目 の 概 要			
(医農融合公衆衛生学環)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	疫学概論	<p>(概要) 疫学研究の本質を学ぶ。主な項目として、疫学研究の定義、様々な疫学指標の測定方法、曝露と結果因子との関連、記述疫学と分析疫学、観察的疫学研究(生態学的研究、横断研究、症例対照研究、コホート研究)、介入研究、交絡因子、選択バイアス、情報バイアス、系統的レビュー、メタアナリシス、統計解析の役割、研究倫理と研究における同意・個人情報保護などがある。生活習慣病の発症に影響するリスク要因を学ぶ。地域、職域において、疫学研究のエビデンスに基づいたポピュレーションストラテジーを展開する一方で、健診結果を適切にフィードバックするなどハイリスクストラテジーも実践することで、予防医学・健康増進に資する健康プログラムを開発して実践活動ができる能力を涵養する。</p> <p>(オムニバス方式/全23回)</p> <p>(1 三宅吉博/9回)</p> <p>第1回: 疫学の定義 第2回: 疫学の指標 1 第3回: 疫学の指標 2 第4回: 記述疫学 第5回: 生態学的研究と横断研究 第6回: 症例対照研究 第9回: 介入研究 第10回: バイアス 第11回: 妥当性と再現性</p> <p>(7 田中景子/5回)</p> <p>第7回: コホート研究 第8回: 交絡因子 第12回: 誤分類 第16, 17回: 系統レビューとメタ・アナリシス</p> <p>(7 田中景子 14 時信亜希子/6回)</p> <p>第13, 14, 15回: 疫学研究論文を読んで概要をまとめる 第18, 19, 20回: メタ・アナリシスを読んで概要をまとめる</p> <p>(1 三宅吉博 7 田中景子 14 時信亜希子/3回)</p> <p>第21, 22, 23回: 疫学研究の実際(母子コホート研究、難病の症例対照研究、愛大コホート研究)</p> <p>※オムニバス方式の授業の開講にあたっては、事前に科目責任者と科目担当者で、授業科目の目的、到達目標、内容、授業の実施方法並びに評価方法等の打ち合わせを行い、連携して教育にあたる。また、成績評価については、科目責任者と科目担当者で、授業への参加態度及び理解度について、各回の授業担当教員と科目責任者が協議し、課題に対するプレゼンテーション等により、学修成果の到達度を検証し、総合的に評価する。 (以下、オムニバス方式の科目について同様)</p>	オムニバス
	保健行政概論	<p>(概要) 疾病予防対策、医療保険制度、医療提供体制、介護保険制度、地域包括ケア、健康危機管理など、種々の保健・医療・福祉に関わる制度・政策について学ぶ。特に、地域の保健、医療、福祉制度の発展に貢献できる能力を涵養する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(15 西嶋真理子/1回)</p> <p>第3回: 介護保険制度 (17 谷告知/1回)</p> <p>第6回: 終末期ケア (16 藤村一美/1回)</p> <p>第5回: 地域包括ケア (40 石丸 文至/1回)</p> <p>第1回: 厚生労働省の役割と社会保障法政策 (35 河野 英明/2回)</p> <p>第2回: 医療政策と医療制度改革 第4回: 医療計画、医療提供体制 (37 三木 優子/1回)</p> <p>第7回: 保健・医療・福祉の財源 (38 廣瀬 浩美/1回)</p> <p>第8回: 保健所、保健センターの機能強化</p>	オムニバス

基礎科目	医学統計学概論	<p>(概要) データ管理方法、統計学的検定、信頼区間、エラーなど医学統計の基本的な概念を理解し、カイ二乗検定、t検定、相関係数、多変量ロジスティック回帰分析、共分散分析、比例ハザードモデル等種々の統計手法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)  (8 木村映善/1回)  第1回：医学統計学の基本  (9 城戸輝仁/1回)  第6回：臨床における統計解析  (7 田中景子/2回)  第4回：交絡因子、分散分析  第5回：ロジスティック回帰、生存時間解析  (14 時信亜希子/1回)  第3回：相対危険と信頼区間  (41 徳永章二/1回)  第8回：先端医学統計  (26 橋哲也/1回)  第7回：実験における統計解析  (27 丸山広達/1回)  第2回：2群の比較</p>	オムニバス
	社会科学・行動科学概論	<p>(概要) 健康行動科学、ストレス、格差社会、ソーシャルキャピタルなど人と社会との関わりを踏まえて、社会経済要因と健康問題との関連を考える。精神保健学、臨床法医学の基礎を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)  (7 田中景子/1回)  第6回：格差社会、ソーシャルキャピタルと健康  (1 三宅吉博/1回)  第7回：医の倫理  (10 上野修一/1回)  第2回：地域精神保健  (11 浅野水辺/1回)  第8回：臨床法医学  (33 加藤 匡宏/2回)  第3回：児童心理  第4回：ストレスと健康  (42 藤井千代/1回)  第1回：精神保健政策  (32 間々田理彦/1回)  第5回：社会的環境問題と健康・福祉</p>	オムニバス
	環境・食品衛生学概論	<p>(概要) 生活域や居住域等の地域規模から世界規模まで様々な規模で生じる環境問題による人間の健康への影響を考える。環境計測、解析手法を学び、疫学研究の知識を基盤として環境の健康影響を評価した上で、環境改善手法を提案し、人間が安心して暮らせる社会を追求できる能力を涵養する。「食の安全・安心」に向けた取り組みは日進月歩である。過去の事例を振り返るとともに、現在の最先端事例を学ぶ。職域における安全衛生を保持する様々な取組を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)  (24 西脇寿/1回)  第5回：残留農薬検査と食の安全性確保  (22 鐘迫典久/1回)  第1回：食・環境の安全・安心とは  (29 石橋弘志/1回)  第2回：食・環境リスク因子の安全性評価  (23 高橋真/1回)  第3回：環境化学物質の計測と曝露評価  (30 水川葉月/1回)  第4回：動物が化学物質を代謝するしくみ  (31 丸山雅史/1回)  第6回：食品汚染微生物の制御  (21 治多伸介/1回)  第7回：上下水道概論  (1 三宅吉博/1回)  第8回：産業保健概論</p>	オムニバス

発展科目	感染症・健康危機管理学	<p>(概要) COVID-19、エイズ、結核、マラリア、インフルエンザ、熱帯病、エボラ出血熱、薬剤耐性菌等、広範な感染症の現状を理解する。その上で、新規感染症アウトブレイクに対処する健康危機管理の概念を理解する。人の健康、動物の健康、環境の保全というワンヘルスの概念を理解する。感染症以外の事象に対する健康危機管理についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)  (13 田内久道/2回)  第1,2回: 感染症概論、医療機関における感染症対策  (25 山下尚之/1回)  第7回: 水環境中における病原微生物の挙動  (34 石野 智子/1回)  第6回: 国際感染症: マラリア対策の今後  (36 四宮 博人/2回)  第3,4回: 公衆衛生における感染症対策とワンヘルス  (37 三木 優子/1回)  第5回: 保健所における感染症対策活動  (38 廣瀬 浩美/1回)  第8回: 保健所における健康危機管理、自身に関わる感染症・健康危機管理の課題と対策レポート作成</p>	オムニバス
	臨床疫学概論	<p>(概要) 疫学の知識を基盤として、臨床現場から得られる情報・データを活用した診断、予後、治療、予防、リスクに関するエビデンスを理解する。臨床疫学研究論文を読み、その特徴を理解する。研究計画書作成、データ収集・分析、発表まで臨床研究の一連の手順を学習する。ランダム化比較試験等の介入研究の必要性、意義、結果の解釈等を理解する。薬剤等医療の分野だけでなく、栄養の介入研究デザインを学ぶ。疾患発症に影響するリスク要因と予後に影響する予後要因が必ずしも同一ではないことを理解しつつ、最新の予防方法や治療方法のエビデンスを学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)  (1 三宅吉博/1回)  第1回: 臨床疫学の基本  (7 田中景子/1回)  第2回: 臨床予測モデル作成法、傾向スコア分析法  (2 川本龍一/1回)  第3回: 地域医療における疫学  (6 山口修/1回)  第4回: 循環器疾患の疫学  (3 薬師神芳洋/1回)  第5回: 癌の疫学  (5 羽藤直人/1回)  第6回: 耳鼻科疾患の疫学  (4 杉山隆/1回)  第7回: 産婦人科疾患の疫学  (12 永井将弘/1回)  第8回: 治験の実際</p>	オムニバス
	ヘルスデータサイエンス概論	<p>(概要) データサイエンスはデータをを用いて新たな科学的及び社会に有益な知見を見出す試みであり、データを処理する統計学、情報工学を横断的に扱う学問領域として設定される。しかし、「ヘルス」領域にデータサイエンス手法を持ち込もうとすると、そのデータの発生源である医療情報システム、運用、制度のみならず、医療分野ドメインの臨床知識も加えての総動員となる。診療や検査の過程で発生するリアルワールドデータでは、システムの運用や保険制度を理解したバイアスの排除が必要であり、これまでの臨床研究とは異なる視点でのアプローチが必要である。さらに、データの分析の再現性が問われている。本概論では、地域における医療、保険、福祉データを統合し、医療保険福祉ビッグデータを解析するのに必要な要素技術の取得とデータの特性の本質に迫れる能力を涵養する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)  (8 木村映善/4回)  第1回: ヘルスデータサイエンス概論  第2回: 医療情報学概論  第3回: RWDに寄与する医療情報規格とシステム  第4回: RWDに関する制度・法律・情報倫理概論  (9 城戸輝仁/1回)  第5回: AIを用いた医用画像処理技術  (8 木村映善 7 田中景子/1回)  第6回: RWDを用いた疫学研究  (8 木村映善 15 西嶋真理子 16 藤村一美 17 谷向知/1回)  第7回: 次世代質的研究  (8 木村映善 1 三宅吉博/1回)  第8回: 愛媛県ヘルスデータサイエンス構想の概説、またこの構想の下、各学生が考える地域の課題に関するエビデンスを、どのような手順で創出できるかを考え発表する</p>	オムニバス

発展科目	精神保健学概論	<p>(概要) 精神疾患の疫学的診断基準や疫学的エビデンスの概要、精神保健の第一次、第二次、第三次予防の方法論を学ぶ。職域のストレスチェック等精神保健プログラムの効果や評価方法を考え、地域におけるメンタルヘルス対策を企画立案できる能力を涵養する。近年、食品・栄養摂取とうつ症状等精神神経疾患との関連が注目されている。食習慣の変容で精神神経疾患の予防施策を講じることができるかなど地域で実行可能な予防方法策定の可能性を探る。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)  (1 三宅吉博/3回)  第6回：職場の精神保健  第7,8回：食習慣と精神疾患の関連  (10 上野修一/1回)  第5回：精神疾患の遺伝疫学  (42 藤井千代/2回)  第3,4回：精神疾患の疫学的診断基準や疫学的エビデンス  (39 竹之内 直人/2回)  第1,2回：地域のメンタルヘルス対策</p>	オムニバス
	地域看護学Ⅰ特論	ヘルスプロモーションの発展過程、理論と展開方法、先駆的活動事例をもとに今後必要とされる保健分野における戦略について演習形式で教授する。	
	地域看護学Ⅱ特論	地域看護学で用いられる主要な概念として、個人・家族、地域、環境、ヘルスプロモーションについて、最新の知見に基づき、体系的に教授する。	
	機能的食品開発論	食品の機能的成分に関する英文学術雑誌を検索し、その中から興味ある論文を1報選択し、その内容をプレゼンテーションする。また、内容に関して質疑討論する。	
	統計演習	<p>(概要) 統計ソフトSASを用いて、実際のエクセルデータを用いて、カイ二乗検定、t検定、相関係数、多変量ロジスティック回帰分析、共分散分析、比例ハザードモデル等種々の統計手法を体験する。栄養疫学を例として交絡因子の選び方と補正方法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)  (8 木村映善/1回)  第1回：統計ソフトSASによる記述統計  (7 田中景子/3回)  第4回：交絡因子、分散分析  第5回：ロジスティック回帰、生存時間解析  第6回：傾向スコア分析法  (14 時信亜希子/1回)  第2回：相関係数  (41 徳永章二/1回)  第7回：統計ソフトStataによる先端的解析  (27 丸山広達/1回)  第3回：t検定とカイ二乗検定  (7 田中景子 27 丸山広達 26 橘哲也 14 時信亜希子/1回)  第8回：課題データで統計演習</p>	オムニバス
疫学方法演習	<p>(概要) 疫学研究論文を読むことで、記述疫学、分析疫学、介入研究それぞれの特徴を理解する。その上で、自身で研究仮説を設定して研究計画を策定する。方法論的な長所と欠点についても考察できる能力を涵養する。特に、情報バイアス、選択バイアス、統計パワー、残余交絡についての理解を深める。栄養疫学を例として疫学方法論の理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)  (27 丸山広達/3回)  第1,2,3回：記述疫学研究、生態学的研究論文を読んで概要をまとめる  (7 田中景子/3回)  第4,5,6回：横断研究、症例対照研究論文を読んで概要をまとめる  (1 三宅吉博/3回)  第7,8,9回：コホート研究、介入研究論文を読んで概要をまとめる  (14 時信亜希子/3回)  第10,11,12回：研究仮説を設定し、研究計画を策定する  (1 三宅吉博 7 田中景子 14 時信亜希子 27 丸山広達/3回)  第13,14,15回：研究計画、研究方法論的な長所と欠点を発表し、学生間で討論する</p>	オムニバス	

	E BM演習	<p>(概要) 特定の研究テーマを設定し、PubMedを用いて適切に文献を抽出して系統的レビューを実践し、エビデンステーブルの作成方法を学ぶ。系統的レビューやメタアナリシスの結果からエビデンスレベルの概念を理解する。エビデンスレベルに応じて臨床や政策に適用できるかどうかの概念も理解する。栄養疫学を例として文献検索、エビデンステーブル策定方法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)  (1 三宅吉博 14 時信亜希子/1回)  第1回: 特定の研究テーマ、キーワードの設定  (1 三宅吉博 14 時信亜希子/1回)  第2回: PubMedを使ってみる  (7 田中景子 27 丸山広達/1回)  第3回: 適切な文献を抽出する  (7 田中景子 27 丸山広達/3回)  第4, 5, 6回: エビデンステーブルを作成し、系統的レビューを行う  (1 三宅吉博 14 時信亜希子/2回)  第7, 8回: 学生間で系統的レビューを発表し、関連するメタアナリシスも活用して、討論する</p>	オムニバス
発展科目	保健所演習	<p>(概要) 地域住民の健康や衛生を支える公的機関である保健所や市町の保健センターで演習を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)  (37 三木 優子/1回)  第1回: 保健所及び管轄の市町保健センターにおける演習 1  (7 田中景子 37 三木 優子/3回)  第2, 3, 4回: 保健所及び管轄の市町保健センターにおける演習 1 のまとめと討論  (38 廣瀬 浩美/1回)  第5回: 保健所及び管轄の市町保健センターにおける演習 2  (7 田中景子 38 廣瀬 浩美/3回)  第6, 7, 8回: 保健所及び管轄の市町保健センターにおける演習 2 のまとめと討論</p>	オムニバス
	地域医療学演習	愛媛県西予市野村町にある西予市立野村病院において、地域医療に関する演習を行う。	
融合科目	医農融合公衆衛生学概論	<p>(概要) 「医農融合公衆衛生学」では「食を通じた健康増進に関する知識・技能」に基づいて、公衆衛生上の地域課題の解決に必要とされる知識・技能を獲得する。本授業は、まずは学生に身近な食習慣、食行動を栄養科学という側面から再確認し、次いで予防医学を中心に公衆衛生学の概観を理解することで、医農融合による公衆衛生教育への橋渡しを行い、本学環の教育カリキュラムの特徴について理解する。</p> <p>具体的には、健康とは何かを理解するとともに、疾病を予防し、健康な状態で身体的・精神的機能の増進をはかるために、食に関わる健康リスクと予防について視野を広げ、食を通じた健康増進、すなわち「医」と「農」の融合が重要であることを学び、栄養疫学の基本を理解する。医食同源に関連する地域課題をテーマに、他研究科の学生や実際に現場で働いている専門家とのグループワークにおける討論や共同作業を通じて、他分野や多職種と協働して課題解決を行っていくことの意義や手法、リーダーシップ、コミュニケーション力・調整力を涵養する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)  (19 岸田太郎/4回)  第2回: 栄養素としてのタンパク質  第3回: 栄養素としての糖質  第4回: 栄養素としての脂質  第5回: ビタミン・ミネラル  (19 岸田太郎 1 三宅吉博/1回)  第1回: 医農融合公衆衛生学とは  (1 三宅吉博/3回)  第6回: 健康、公衆衛生、予防医学とは  第7回: リスク要因、予防要因とは  第8回: 食べ物は健康に影響する  (7 田中景子/1回)  第9回: 栄養疫学は面白い: エビデンスレベルって何?  (20 菅原卓也 28 西甲介/1回)  第10回: 栄養の健康に対する影響: メカニズムを考える  (19 岸田太郎 18 荒木 卓哉 20 菅原卓也 28 西甲介 27 丸山広達 1 三宅吉博 7 田中景子/5回)  第11, 12, 13回: 学生が医食同源を考える  第14, 15回: 学生が考える医食同源: 本学環以外の大学院生や企業等所属の専門家とグループワーク</p>	オムニバス

<p>融合科目</p>	<p>医農融合公衆衛生学演習</p>	<p>(概要) 医農融合公衆衛生学の中核をなす栄養疫学の知識、技能を習得する。栄養疫学研究に基づくエビデンスは、世界レベルで人々の食習慣、食行動に変容をもたらす可能性があり、強いインパクトを持つ。故に、正確な知識、技能を身につける必要がある。具体的な栄養疫学の知識、技能として、①栄養を曝露要因とする特殊性を理解し、半定量食物摂取頻度調査票、食事記録法、バイオマーカー測定等、栄養の評価方法を学ぶ。特に半定量食物摂取頻度調査票では栄養素、食品、食事パターンの評価方法を理解する。②半定量食物摂取頻度調査票で得た情報とバイオマーカーで得た情報の違いについても理解を深める。③栄養を曝露とした観察的疫学研究デザイン、栄養の介入研究デザインを学ぶ。このような知識、技能に基づき、栄養摂取が喫煙と同等或いは喫煙に次いで疾患発症に影響している可能性を理解する。禁煙と同じく食習慣の行動変容が健康増進に不可欠であることを理解する。栄養疫学の知識、技能を、自身が専門とする分野に応用できる素養も涵養する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(1 三宅吉博/4回)</p> <p>第4回：栄養疫学結果の解釈：バイオマーカーと摂取量の違い  第7,8回：観察的栄養疫学における総エネルギー摂取補正と多変量解析  第15回：パーキンソン病の症例対照研究  (7 田中景子/4回)</p> <p>第1,2回：食事調査方法：食事記録法と半定量食事摂取頻度調査法  第5回：各栄養素間の相関  第6回：社会経済要因等の交絡因子と栄養との関連  (27 丸山広達/4回)</p> <p>第3回：栄養の評価方法：バイオマーカー  第9,10回：栄養の介入研究  第13回：成人における栄養疫学研究の紹介  (43 大久保公美/3回)</p> <p>第11,12回：栄養素、食品、次いで食事パターン  第17回：栄養疫学の活用：保健行政  (43 大久保公美 7 田中景子/1回)</p> <p>第14回：出生前コホート研究の栄養疫学の紹介  (19 岸田太郎 20 菅原卓也 27 丸山広達/1回)</p> <p>第16回：栄養疫学の活用：食品企業  (1 三宅吉博 7 田中景子/4回)</p> <p>第21～24回：パーキンソン病の症例対照研究のデータを統計ソフトSASで解析してみる  (1 三宅吉博 7 田中景子 19 岸田太郎 18 荒木 卓哉 20 菅原卓也 28 西甲介 27 丸山広達 14 時信亜希子/9回)</p> <p>第18～20回：栄養疫学に関するエビデンステーブルを作成し、系統的レビューを行う  第25～27回：栄養疫学に関する研究計画を策定する  第28～30回：栄養疫学に関する研究計画、研究方法論の長所と欠点を発表し、学生間で討論する</p>	<p>オムニバス</p>
-------------	--------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------

実践研究科目	実践研究	<p>(概要) 自らの専門分野とは異なる専門分野の知識及び技能の修得や自分の専門分野の更なる深化など、自分の興味や目指す将来像・キャリアパスに応じて、学生が自らの学びに応じた研究テーマ・課題を設定し、修士論文に取り組むための研究計画立案と継続的な研究指導を行う。</p> <p>実践研究の課題例として、下記が想定されるが、これらに限定はしない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 系統的レビュー、可能であればメタアナリシスも実施</li> <li>・ データを用いた統計解析研究</li> <li>・ 在学中の業務やインターンシップ経験、或いは調査研究に基づく詳細なレポート</li> </ul> <p>以下に各研究領域ごとの研究指導テーマの候補を列挙する。 研究指導は、主指導教員と、主指導教員と領域の異なる副指導教員が連携して指導する。</p> <p>(疫学分野)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ビタミンC摂取と認知症</li> <li>・ カフェイン摂取とうつ症状</li> <li>・ 運動習慣と前立腺がん発症</li> <li>・ 職業曝露と心不全発症</li> </ul> <p>(保健医療管理学分野)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療保健政策の決定要因</li> <li>・ 地域包括ケアと終末期医療</li> <li>・ 新型コロナウイルスの医療体制への影響</li> <li>・ 保健所政令市の長所と欠点</li> </ul> <p>(生物統計学分野)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 複数のビッグデータの連結方法</li> <li>・ ヘルスデータサイエンスにおけるAIの活用</li> <li>・ 次世代質的研究手法</li> <li>・ 医療ビッグデータから薬剤副作用の検出手法</li> </ul> <p>(社会科学・行動科学)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次世代の医の倫理のあり方</li> <li>・ 職場におけるストレス軽減システム</li> <li>・ 周産期ストレスによる子供の発達への影響</li> <li>・ 禁煙外来患者の行動パターンから食事変容システムの開発</li> </ul> <p>(環境・食品衛生学)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食・環境の安全・安心</li> <li>・ 環境化学物質の健康影響</li> <li>・ 食品汚染微生物の制御</li> <li>・ 水の確保</li> </ul> <p>(1 三宅 吉博)</p> <p>実践研究の目的は疫学研究の本質の理解を深めることである。具体的には学生の興味ある特定の曝露要因と疾患を決定し、PubMed (医学文献データベース) から該当の文献を検索抽出し、エビデンステーブルを作成して系統的レビューを行う。可能であればメタ・アナリシスを実施する。適切なEBMの実践や疫学原著論文執筆に必要となる素養を涵養するための研究指導を行う。</p> <p>(2 川本 龍一)</p> <p>地域医療に関する研究は、地域医療の現場での体験が重要であり、その中でこそ地域医療の研究課題を描くことが可能となる。中山間地域や離島などへき地を多く抱える愛媛県においては、郡部や島嶼部を中心とした少子・高齢化の著しい進行や世帯構造の変化に伴い、疾病の複雑化、要介護者の増加及び生活習慣病の増加等、県民の保健・医療に対するニーズも多様化・複雑化している。これら課題に対応するため、現地のニーズに即した地域医療に関する研究指導を行う。</p> <p>(3 薬師神 芳洋)</p> <p>本講義の目的は、地域における様々ながんの臨床・研究において、公衆衛生的な手法を通じて専門家として指導的役割を果たすことができる人材の輩出である。このために、様々ながん研究の成果やメタアナリシスの研究成果を解釈し、がんの臨床における公衆衛生学上の様々な課題について、問題点を把握し、また対策を組み立て、その対策の再評価・改善といったPDCAサイクル (Plan・Do・Check・Actionサイクル) を実践できる知識・技能を取得するための指導を行う。</p> <p>(4 杉山 隆)</p> <p>妊娠に関する実際の疫学研究を紹介し、知識の確認を図り、円滑な研究活動に資する目的で研究指導を行う。具体的には、妊娠に関連する実際の大規模観察研究 (母体の過栄養と胎児発育、子宮内環境と将来の児の疾患発症) を取り上げ、観察研究と介入研究の相違を確認するとともに、観察研究に基づくresearch questionを考え、そのquestionを実証するための実際の介入試験のデザイン等を考える。</p> <p>(5 羽藤 直人)</p> <p>臨床疫学研究は、疾患コホート研究からビッグデータベースを用いた新しい時代へ発展している。実践研究として耳鼻咽喉科領域の難聴やアレルギー性鼻炎を対象とした、疾患疫学研究の基礎、手法を学ぶとともに、大規模な疾患レジストリの構築の現状や問題点を共有し、研究遂行能力、問題解決能力を養成する。</p> <p>(6 山口 修)</p> <p>循環器疾患は世界的にも主要な死因を占めている。そのソリューションとして大規模な臨床研究が多数行われ、様々なエビデンスが示され、その解釈に基づく医療が実践されている。本講義では、研究成果を実臨床において適切に活用するため、科学的判断に基づく解決策立案能力の習得を目標とする。</p>
--------	------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



## (8) 木村 映善

従来の調査票を中心とした研究に加え、診療や検診等の診療業務から発生したリアルワールドデータを活用した研究が増えつつある。機微な医療情報を含む要配慮個人情報概念、次世代医療基盤法等のデータに関する諸制度や標準医療情報規格、データの定義・前処理を学び、研究に必要なデータを収集する方法論を検討できる能力を養う。

## (9) 城戸 輝仁

実践研究の目的は疫学研究におけるAIの活用について理解を深めることである。具体的には検診情報などのヘルスデータを活用したビッグデータ構築、教師データの精度管理、AIによる解析を段階的に実践することで、今後の疫学研究に活用できるシステム構築を目指した研究指導を行う。

## (12) 永井 将弘

研究計画書（プロトコル）の作成を通して、抽象的な疑問であるクリニカルクエスションから具体的に解決可能なリサーチクエスションへ昇華させる方法、プロトコル作成における注意すべき点を学ぶ。また、臨床研究を実践する上で最も大切な研究倫理の原則を学び、研究不正事案などの学習を通じて、臨床研究倫理指針や法令遵守の意義を理解する。

## (7) 田中 景子

根拠に基づく医療を始め、根拠に基づいた決定や判断をするためには、過去の根拠を批判的に吟味し、その長所と欠点を十分に理解した上で、根拠を活用していくことが必要となる。実際には、学生の興味のあるテーマについて文献検索、該当論文の抽出、論文から必要な情報を抽出し、エビデンステーブルを作成する。結果の解釈と応用可能性について吟味することで、根拠の創出に必要な知識と技能の習得を目指した研究指導を行う。

## (15) 西嶋 真理子

健康に関する実務者を中心として学生自身の学びに応じた研究テーマ・課題の設定から研究計画の作成・実施・評価のプロセスにおける研究指導を行う。食と健康を軸に健康増進に向けた生活課題を行動科学や環境、保健施策等の面から問題の構造や強みについて多角的に追究し、多職種とともに問題解決できる実践力を涵養する。

## (16) 藤村 一美

実践研究は、自らの実践や経験に基づき、公衆衛生・地域保健に関連した特定の課題に対する知識と批判的思考の実証を目的とする。研究課題に関連する要因を文献レビューや実践現場とインタラクティブしながら明確にし、研究課題の解明におけた介入を行う。得られたデータの分析、評価の過程を通して、実践に活用できる研究能力を身に付けることを目指した研究指導を行う。

## (18) 荒木 卓哉

作物の収穫部位に含まれる機能性成分に着目し、その含有量の変異に関して突然変異集団を用いた解析や、諸条件で栽培した場合の機能性成分の含有量と環境要因との関係の解析を行う。これらを通して、食と健康の基盤となる作物生産について理解を深めるための研究指導を行う。

## (19) 岸田 太郎

実践研究の目的は食品成分と健康の関りを疫学的に検索することにある。具体的には学生の興味ある特定の食品成分を決定し、健康調査時の保存血清等の分析や食事調査から摂取量の推定値と各種健康パラメータとの関係を疫学的手法を駆使して検索する。適切な栄養疫学の実践や疫学原著論文執筆に必要な素養を涵養するための研究指導を行う。

## (20) 菅原 卓也

学生は、興味ある食品素材について、文献検索、あるいは実験的に特徴的な保健機能成分の機能性について調査し、その保健機能を活用した具体的な機能性食品を提案するとともに、産学連携により実践的に機能性食品を開発を計画し、実行する。実践的な活動を通して、機能性食品開発に関する課題解決力を身に付ける。

## (26) 橋 哲也

実践研究の目的は畜産物の栄養素とその利用について理解を深めることである。学生が興味をもった畜産物、あるいはそれに含まれる栄養素を選び、その畜産物の安全性または栄養素の機能について調査を実施し、系統敵にレビューを行う。現在の畜産物の知見を得ることで、将来的な研究計画の立案の素地を養う。

## (28) 西 甲介

実践研究の目的は食の安全・安心に関する理解を深めることである。具体的には学生の興味ある特定の食品成分や添加物、残留農薬成分等を決定し、PubMed（医学文献データベース）から該当の文献を検索抽出し、研究内容のレビューを行う。可能であれば自ら細胞生物学／生化学／分子生物学実験を実施し、文献にある研究内容の再現性確認や新規知見の探索を行う。食の安全・安心に関する専門的かつ指導的役割を果たすために必要となる素養を涵養するための研究指導を行う。

## (27) 丸山 広達

「食」「栄養」「健康」をキーワードに、実際に研究に参画し、研究の立案、調査、統計分析などに必要な基礎力の向上を図る（テーマ例1：食品企業関係であれば食品、栄養成分の機能性確認のための介入研究、観察疫学研究、テーマ例2：行政職であればKDB等の公的データの分析による地域診断）。

## (21) 治多 伸介

水質汚染の実態解明や水質浄化技術開発に関する研究への理解を深めるために、窒素、リン、微量有機汚染物質（医薬品、化粧品など）、マイクロプラスチック、病原菌などによる汚染実態と対策についての文献レビューを行う。可能であれば、水質に関連する研究の基礎となる化学分析技術の指導も行う。

## (22) 鐘迫 典久

食と環境はお互いに関連しており、それらは生活の基盤となっている。より良い生活をおくるうえでそれら食べ物や環境についての安全はどのように担保されているのか、安心はどうかすれば得られるのかについて、一般的な考え方を身につける。またリスクとは何かと実際に行われているリスク評価のやり方について概説する。

実践研究科目	実践研究	<p>(23 高橋 真)</p> <p>安心・安全な食と環境の確保・保全に資する環境化学物質のモニタリング、動態解析、リスク評価法の理解・習得に係る研究指導を行う。とくにPCBなどの残留性有機汚染物質や残留農薬等を中心に、その発生源や環境動態に関する理解を深め、各種微量分析法や曝露評価等に必要となる素養および技術習得に係る研究指導を行う。</p> <p>(29 石橋 弘志)</p> <p>専門分野に関する知識及び技能を深化させるため、具体的には環境汚染物質のヒトや生態系に及ぼす健康・生態影響に関して、分子・細胞から個体・生態系レベルまでの視点を考慮して研究計画を立案し、さらに研究計画の実施・評価・改善に関する一連のプロセスを実践する。また、原著論文の執筆に必要な素養を涵養するため、文献のデータベース検索・調査と評価を実践する。</p> <p>(30 水川 葉月)</p> <p>野生動物やペット動物に蓄積する残留性有機汚染物質や農薬、生活関連物質などを測定し、どのような化学物質が、どの組織に、どれくらいのレベルで存在するのか調査する。また、これらの化学物質の代謝排出能の解析や健康リスク評価も行う。</p> <p>(24 西脇 寿)</p> <p>抗菌、殺虫または除草作用を示す物質を自然界から単離し、その物質の構造ならびに特性を調査する。並行して、これまで用いられてきた農薬に関して、環境や食品中での動態や安全性に関する文献を調査する。これらの結果をもとに、単離した生物活性物質を安全に利用するためにどのようなことを考慮すればよいのか考察を深める。</p> <p>(31 丸山 雅史)</p> <p>実践研究では、食品衛生教育の一環として微生物制御の側面から関連する多様な微生物に着目し、これらを研究材料とした課題を組み立てる。微生物の生態や代謝物質など微生物学的、生化学的見地から得られる実験データおよびそれに関連する学術論文などから情報を収集し、現代社会における課題に対して、基礎知識の構築や展開に向けた考察など素養を涵養するための研究指導を行う。</p>	
--------	------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

愛媛大学 設置申請に関わる組織の移行表

令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
愛媛大学				愛媛大学				
法文学部		3年次		法文学部		3年次		
人文社会学科 (昼間主コース)	275	10	1,520	人文社会学科 (昼間主コース)	275	10	1,520	
(夜間主コース)	90	20		(夜間主コース)	90	20		
教育学部 学校教育教員養成課程	160	—	640	教育学部 学校教育教員養成課程	160	—	640	
社会共創学部				社会共創学部				
産業マネジメント学科	70	—	720	産業マネジメント学科	70	—	720	
産業イノベーション学科	25	—		産業イノベーション学科	25	—		
環境デザイン学科	35	—		環境デザイン学科	35	—		
地域資源マネジメント学科	50	—		地域資源マネジメント学科	50	—		
理学部 理学科	225	—	900	理学部 理学科	225	—	900	
医学部		2年次		医学部		2年次		
医学科	110	5	945	医学科	95	5	930	定員変更(Δ15) 医学部医学科の定員15名の増加 については、令和3年度までの措 置。
看護学科	60	10		看護学科	60	10		
工学部		3年次		工学部		3年次		
工学科	500	10	2,020	工学科	500	10	2,020	
農学部		3年次		農学部		3年次		
食料生産学科	70	5	700	食料生産学科	70	5	700	
生命機能学科	45	2		生命機能学科	45	2		
生物環境学科	55	3		生物環境学科	55	3		
計	1,770	5	7,445	計	1,755	5	7,430	
		3年次	60			3年次	60	
愛媛大学大学院				愛媛大学大学院				
人文社会科学研究所				人文社会科学研究所				
法文学専攻(M)	12	—	24	法文学専攻(M)	12	—	24	
産業システム創成専攻(M)	8	—	16	産業システム創成専攻(M)	8	—	16	
教育学研究科				教育学研究科				
心理発達臨床専攻(M)	10	—	20	心理発達臨床専攻(M)	10	—	20	
教育実践高度化専攻(P)	40	—	80	教育実践高度化専攻(P)	40	—	80	
医学系研究科				医学系研究科				
医学専攻(D)	30	—	120	医学専攻(D)	30	—	120	
看護学専攻(D)	2	—	6	看護学専攻(D)	2	—	6	
看護学専攻(M)	12	—	24	看護学専攻(M)	12	—	24	
					(うち、看護学専攻から医農融合公衆衛生 学環の内数とする入学定員数及び収容定 員数)		(4)	※
理工学研究科				理工学研究科				
生産環境工学専攻(M)	62	—	124	生産環境工学専攻(M)	62	—	124	
物質生命工学専攻(M)	61	—	122	物質生命工学専攻(M)	61	—	122	
電子情報工学専攻(M)	59	—	118	電子情報工学専攻(M)	59	—	118	
数理物質科学専攻(M)	40	—	80	数理物質科学専攻(M)	40	—	80	
環境機能科学専攻(M)	28	—	56	環境機能科学専攻(M)	28	—	56	
生産環境工学専攻(D)	6	—	18	生産環境工学専攻(D)	6	—	18	
物質生命工学専攻(D)	5	—	15	物質生命工学専攻(D)	5	—	15	
電子情報工学専攻(D)	4	—	12	電子情報工学専攻(D)	4	—	12	
数理物質科学専攻(D)	4	—	12	数理物質科学専攻(D)	4	—	12	
環境機能科学専攻(D)	4	—	12	環境機能科学専攻(D)	4	—	12	
農学研究科				農学研究科				
食料生産学専攻(M)	26	—	52	食料生産学専攻(M)	26	—	52	
					(うち、食料生産学専攻から医農融合公衆 衛生学環の内数とする入学定員数及び収 容定員数)		(2)	※
生命機能学専攻(M)	23	—	46	生命機能学専攻(M)	23	—	46	
生物環境学専攻(M)	23	—	46	生物環境学専攻(M)	23	—	46	
					(うち、生物環境学専攻から医農融合公衆 衛生学環の内数とする入学定員数及び収 容定員数)		(4)	※
連合農学研究科				連合農学研究科				
生物資源生産学専攻(D)	9	—	27	生物資源生産学専攻(D)	9	—	27	
生物資源利用学専攻(D)	4	—	12	生物資源利用学専攻(D)	4	—	12	
生物環境保全学専攻(D)	4	—	12	生物環境保全学専攻(D)	4	—	12	
計	476	—	1,054	計	476	—	1,054	
								※研究科等連係課程実施基 本組織の設置(事前相談)
								※医農融合公衆衛生学環(M)の入学定員及び収容定員は、医学系研究科看護学(M)、農学研究 科食料生産学専攻(M)及び農学研究科生物環境学専攻(M)の内数とする。